

京都大学教育研究振興財団助成事業
成果報告書

R7年2月3日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会長 藤 洋作 様

所属部局 京都大学大学院理学研究科付属 地球熱学研究施設

職 名 准教授

氏 名 宇津木 充

助成の種類	令和6年度・国際会議開催助成		
国際会議名	第26回地球・惑星電磁気学国際ワークショップ The 26th Electromagnetic Induction Workshop (EMIW2024)		
開催期間	2024年9月7日～2024年9月13日		
開催場所	別府国際コンベンションセンター・ビーコンプラザ		
参加者	総数 388名	内訳 中国:101名、日本:85名、ドイツ:37名、米国:21名、オーストラリア:16名、カナダ:18名、台湾:13名、インド:11名、その他86名	
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有(プログラムブック)		
会計報告	事業に要した経費総額	48,768,122 円	
	うち当財団からの助成額	1,000,000 円	
	その他の資金の出所	(機関や資金の名称) 参加者・参加登録費、日本政府観光局・国際会議開催寄附金交付金、地球電磁気・地球惑星圏学会・国際学術研究集会補助金、セコム科学技術振興財団・学術集会および科学技術振興事業助成金、ツーリズムおおいた・MICE開催助成金、東京倶楽部・文化活動助成金、東京地学協会・国際研究集会助成金、別府市コンベンション振興協議会・コンベンション開催支援補助金、その他関連企業・団体(22社・3団体)からの寄附金・協賛金	
	経費の内訳と助成金の用途について		
	費目	金額(円)	財団助成充当額(円)
若手研究者・学生の参加費・旅費支援	8,269,000	1,000,000	
合計	8,269,000	1,000,000	
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 貴団体からの助成をいただいたことで、世界中から多くの学生・若手研究者が本ワークショップに参加することができ、大変ありがたく存じます。LOCによる学生・若手研究者の参加支援のための募金活動の成果については、主催者からも高く評価されました。一方で、参加支援の希望者の募集、審査過程は4～5月に実施したため、5月末に貴団体からの助成が決定した後に、追加の審査を実施せざるを得ませんでした。助成の決定が前年度末までにいただければ、これらの過程をより効率的に進められたと思います。開催時期が年度前半の会議にとっても、助成決定時期がより早い方が有益と思います。予算決定時期の都合もあると存じますが、ご検討をいただければ幸いです。		

成果の概要 / 宇津木充

Electromagnetic Induction Workshop (EMIW) は、International Association of Geomagnetism and Aeronomy (IAGA)の Division VI: Electromagnetic Induction in the Earth and Planetary Bodies の主催で、2年に一度開催される国際ワークショップです。EMIWでは、電磁気学的な観測手法を用いた地球の地殻・マントルおよび惑星内部の構造探査に関わる様々な研究成果が発表されます。Local Organizing Committee (LOC) メンバーは、国内の大学・研究機関に所属する研究者で、京都大学からも5名の研究者が参加しました。

このたび、EMIWの第26回大会(EMIW2024)を、2024年9月7日(土)から13日(金)にかけて、大分県別府市の国際コンベンションセンター・ビーコンプラザにて開催いたしました。参加登録者は、388名(国内からの参加者は85名)であり(図1)、最近5大会で最多となりました。

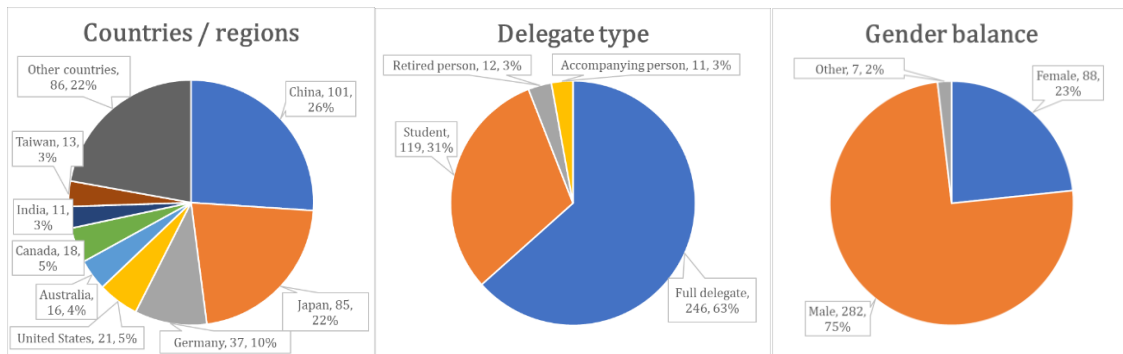


図1. 参加登録者数の内訳

本ワークショップのEMIWの特徴として、次世代研究者に積極的な参加を募り、当該研究コミュニティの裾野を広げることを重視しています。その一環として、学生・若手研究者の参加費・旅費の支援を実施しています。この目的のため、LOCは貴財団を含む複数の学会・財団・企業などから補助金・助成金・協賛金を募集しました。これらの支援により、世界各国から48名の学生・若手研究者(うち国内学生7名)がEMIW2024に参加し、成果発表を行いました。

本ワークショップの口頭発表は1会場で行われ、全参加者が全てのセッションの発表を聴講し、議論に参加しました。主要トピックについてはレビュー講演が行われました。またポスターは一週間の会期中ずっと掲示することでいつでも議論ができよう企画しておりましたが、発表件数が当初予想を大きく上回ったため、ポスター発表については、2グループに分けて2日間ずつの掲示となりました。EMIW2024で開催されたセッションは以下のとおりです。

- Instrumentation, data acquisition and processing
- EM theory, modelling and Inversion

- EM methods for exploration (geothermal, mineral resources, etc.)
- Tectonics and geodynamics, including magmatism
- Monitoring: of GICs, environmental, tectonic and geomorphological hazards
- Marine and airborne EM.
- Electrical rock properties: computer, laboratory and field experiments, including anisotropy
- Global, planetary and source field studies
- EM induction education and outreach

発表件数は、レビュー講演 7 件、通常的口頭発表 45 件、ポスター発表 332 件でした。発表予稿は、EMIW2024 のホームページ (<https://www.emiw.org/emiw2024/>) より公開されています。EMIW2024 で発表された研究成果については、内容別に以下の 3 つの国際学術誌の特集号に纏められる予定です。

- レビュー講演を集めた特集号 (Surveys in Geophysics 誌; <https://link.springer.com/collections/hiididhagb>)
- レビュー講演以外の学術的な研究成果 (Earth, Planets and Space 誌; <https://www.springeropen.com/collections/EMIW26>)
- レビュー講演以外の物理探査技術に関する研究成果 (Exploration Geophysics 誌)

このほか、EMIW の伝統にのっとり、会期の初日 (9 月 7 日) に Icebreaker, 中日 (9 月 10 日) に Excursion、最終日 (9 月 13 日) に Farewell dinner を催しました。また女性研究者間の交流の場として Women's network event が有志により開催され、LOC もイベントをサポートしました。これらの Social events は、参加者が旧交を温め、また新たな研究者間ネットワークを構築すること、また開催地の自然・文化・歴史を学ぶ機会として、有益でした。

EMIW 開催の目的・意義は、国際的な当該研究コミュニティの継続的発展にあります。とくに日本への誘致は、国内の研究コミュニティの活性化と次世代への継承を期したものでありましたが、これらの目的は達成できたものと感じております。Farewell dinner で散会する際には、多くの海外参加者から EMIW2024 の成功を祝福するお言葉や LOC への謝意をいただきました。また初めて EMIW に参加した学生からも、参加してよかった、良い経験になったなどポジティブな反応を多く聞くことができました。この機運を逃すことなく、今後の学会活動等において引き続き当該分野の発展に貢献していきたいと存じます。